



# 40 歩



〒214-0012 川崎市多摩区中野島 4-3-28 TEL : 044-911-2612 FAX : 044-911-0462

## みなさん、お元気ですか？

とうとう、でんでん虫の『40歩』をお届けする時が来てしまいました！

2021年度は『親と子の寺子屋でんでん虫の家』が生田で療育相談の事業を開始して40年目という節目の年で、本来であれば何か記念の行事を行い、これまで関わったたくさんの皆さまと40年を振り返り、今後に向けてたくさんお話をしたかった年でした。けれども、残念なことに『でんでん虫の40周年』は、年間を通じて緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出され続け、身近な環境で感染が広がるという、収束の見えないコロナ禍の様々な制限と対応に追われる1年になってしまいました。

2020年度から続く「新しい生活様式」の中でもなんとか代替案をと考え、施設支援では「Zoomによる音楽療法」にも取り組みました。実際に利用した方々からはとりあえず好評を得ましたが、回数を重ねると『やはり対面で・・・』という意見が増えていきました。会議や研修で、だいぶ使い慣れたオンラインでの活動ですが、現実的には縮小せざるを得ないことも多くあり、長期的な代替えの方法としては難しさを感じました。

また、学校支援では、校内での感染拡大や学校側の自粛策がなかなか厳しく、予定の延期や中止が繰り返されました。実施数の減少はもちろんですが、この2年半の自粛対策は、3密を避け、安全・安心を求めるための『制限』に向かうあまり、私たちが求めてきた『共に生き、共に育つ。障がいの有無に関わらず、地域の中であたり前に』の思いによる、お互いに『知り合い・共有する』ことから離れて行ってしまうのではないかと、という不安が頭をもたげてきてしまうような状況になっていると思います。

とは言え、不安を募らせるばかりではなく、パワフルで前向きな利用者さんたちとの時間にパワーをいただきつつ、『やはり対面で・・・』という思いにしっかり応えられるよう、日々の活動には楽しい工夫を重ねたいと思っています。

まずは、3年ぶりに『ポプラの音楽会』を開催します。昨年、一昨年はDVD制作のみの会になってしまいました。今年度もすでに3月に予定していた会を延期にしたのですが、時間制限あり、人数制限あり、検温も換気も消毒もありで、『お互いに聴きあい、拍手を送り合う』会として開催します。

一日も早いコロナ禍の収束を願いつつ、でんでん虫らしく『地域の中でいきいきと、あたりまえに』を実践する『41歩』を歩みたいと思います。

## 2021年度 活動報告

### 【外来療育】

#### ♪通常プログラム

新型コロナウイルスに対する感染対策をしながらの活動の2年目でした。

マスクをしてのコミュニケーションに戸惑いを感じながらも、重要な感染対策として、利用者の皆さんにもご協力いただきながらのまた1年でした。

でんでん虫自体での感染拡大はなく過ごせましたが、感染の影響はでんでん虫が当たり前に思っていた日々の活動に少なからず降りかかってきました。利用者の皆さんの通学・通所先での感染拡大、でんでん虫外来の休止、またそれぞれのご事情で自宅待機を余儀なくされた方々もありました。活動を充実させてゆきたい思いと感染に対する制約との折り合いをどこにするのかを悩みつつ中止した行事もありました。

しかし、日々の実際のリズムの中ではどのグループもエネルギーを出して楽しく取り組んでくれました。

発達を支援する時期の幼児、仲間の中で安心して活動する時期、思春期の複雑な気持ちの時期、仕事を終え楽しみな活動、自己実現の活動等いろいろな年齢や時期の状況の方々が参加しています。

健康体操や太鼓クラブ、サイエンスクラブは引き続き講師の先生方のご協力もあり年間を通して継続することが出来ました。

●感染対策は前年度から引き続き行っています。手洗い消毒・マスク・使用楽器や室内の消毒・換気リズムの時間短縮、活動内容の工夫は引き続き行ってまいりました。

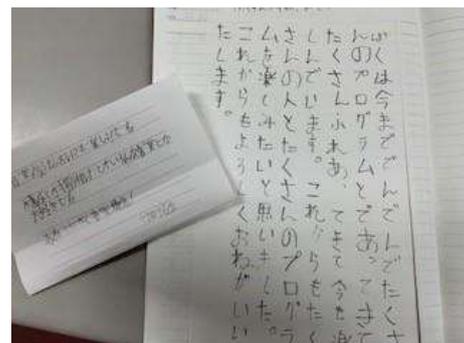
	提供プログラム	利用人数	年間回数	延べ回数
1	外来療育(個別・グループ・言語)	82	721	1786
2	健康体操(1回8名定員)	12	24	192
3	YYプロジェクト	8	21	168
4	太鼓クラブ	10	12	120
5	サイエンスクラブ	4	11	44
6	土曜親子リズム	7	12	84
	合計	123	801	2394

利用者の年齢は2歳～60歳代まで

### 【年間行事や外部講師による特別プログラム等】

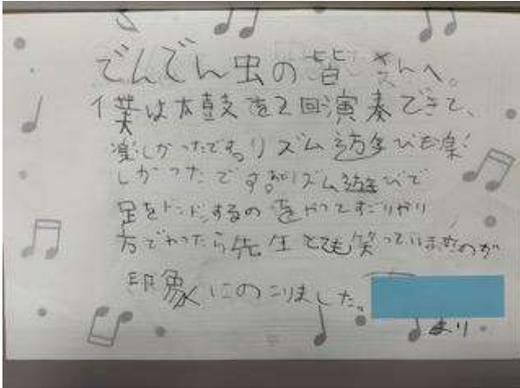
感染状況を見て、行事の実施のタイミングを常に検討しつつの年度となりましたが、地域支援のクリスマス会、HappyNotes、ポプラの音楽会は実施をすることが出来ませんでした。

ポプラの音楽会は自分たちの発表だけではなく、実際に他のグループの演奏や発表を聴く機会でもあります。2年連続のDVD発表でしたが、2021年度の「ポプラの音楽会」は、3月に行うことは感染状況から難しいと判断しましたが次年度の夏前に延期し、皆さんと実際に音楽やその場の雰囲気と共有することを目指し準備をしています。



## 【学校・施設支援】

2021 年度も引き続きコロナ感染対策を行いながら実施しました。活動の制約のある中で児童、利用者、教職員と検討、協力をしながら行いました。学校の先生方からは「楽しい行事がみな延期や中止なので久しぶりに楽しくみんなで取り組めた」などの感想がありました。



しかし、緊急事態宣言・感染拡大の状況があり、日程の変更を重ねましたが、今年度は実施することが出来なかった学校もありますし、申込みを断念する学校もありました。



●何年も積み重ねてきた高津小学校での共生コンサートは1年ぶりに実施できました。5年生の児童を対象に「地域活動支援センターアルデンテ」の皆さんの活動の様子を紹介し、その後支援級の児童（あおば級）を交えて約一時間のふれあいコンサートを行いました。

参加した一人一人が何かを感じる事が出来る時間となるよう、今後も続けていきたいと考えています。

児童からの手紙は嬉しいです



		リズム
小学校	22校	53回
外部施設・作業所	9か所	105回
星槎大学（適応自立支援コース）		25回
夜間保育所あいいくリズム		6回
高津小学校共生コンサート		1回
合計		190回

## 【法人内連携（音楽活動）】

あゆ工房（集団 45 回・個別 80 回）	125 回	なごみ保育園	29 回
夢花工房（夢花 34・デイリー 20・ドリフラ 22）	76 回	太子堂なごみ保育園	13 回
児童デイサービスここから	42 回	梅ヶ丘なごみ保育園	12 回
放課後等デイサービスここから	44 回	三宿の杜なごみ保育園	12 回
放課後等デイサービスドリーム	2 回	北烏山なごみ保育園	16 回
子育て支援センターページブル	11 回	子育て支援センターページブル土曜親子	382 回
子育て支援センターページブル母親講座	3 回	合計	386 回

保育園・児童デイ・放課後デイ・子育て支援センターとの連携は、音楽のリズム活動だけでなく、発達に心配のみられる子どもの相談にも繋がっています。子どもの発達の心配の相談は早期対応の必要性ではなく保護者の子育てに向かう気持ちを支えより良い親子関係となるようにと考えます。 栗原敦子



## 稲城七つの子での活動

稲城七つの子の皆さんとの 2021 年度の活動は、ホールでのコンサート型・Zoom・対面と、様々な形で、今出来ることを重ねた1年でした。

でんでん虫でも初めての試みとなる、Zoom によるセッションでは、10 組の方が参加して下さいました。日用品を楽器として使用したり、見て楽しめるパネルシアターや、フルート演奏による鑑賞も行い、ご家族の方と一緒にご自宅で楽しむことが出来る活動を行いました。画面越しでどれだけやりとりが出来るのか不安でしたが、こちらから発信した声や音楽やボディアクションを受け取って、笑顔を見せてくれたり、同じ動きをして反応して下さる様子を見て、画面越しでも「繋がれた！」と感ずることが出来ました。

それぞれご自宅にいるみなさんが、私達やしばらく会えていないお友達と一緒に音楽を共有出来る時間は貴重で、会えない時間を繋ぐために必要な試みだったと思います。七つの子のスタッフさんに協力していただき、音響の設定を工夫してみると、こんなに音楽が鮮明に相手に伝わるのだということも驚きでした。

ですが、目の前でお互いの呼吸や表情を感じながら、近くでお互いを感じながら出来ることが1番だと感じます。

3月に対面で行なったセッションでは、実際に皆さんの表情や反応を見ながら音楽や動きを合わせていけたことで、DVD や Zoom とは違った一体感を感じながら活動することが出来ました。

2022 年度は対面でのセッションを予定しています。

みなさんに安心してお会い出来る時が早く訪れることを願うばかりです。

小田嶋 幸子



Zoom セッション中の様子。  
画面の向こうまで届け～♪



## 夢花工房ドリームフラワーズ

前年度に引き続き三つの小グループで活動を継続しました。5月の連休明けからは、活動場所が鷲ヶ峰からアンサンブルに移動しました。年度始めから、行事の再開に関してははっきりとした予定も立てられず発表の場もないままでしたが、今この時を楽しむ、今このことに集中する、という音楽活動にどんどん入り込んでいくことができた一年間でした。

すっかり板についてきたテーマ曲「夢花ドリフラ」は歌っても踊っても、どのチームからもキレの良さが出てきます。ソロでダンスすることもおなじみになり、手を上げて自ら出てくる人も多数。コンガにシンバルやツリーチャイムを組み合わせると、自由にしかも音楽的に感じて工夫して効果的に鳴らしその一致している感じをみんなで「いいね」と共有できました。

合奏ではこれまでの曲に加えて、楽器を持ち替えながら演奏することにチャレンジすると、意欲を持って真剣に取り組む素敵な演奏になり、できたね！！素晴らしい！！と皆で一緒に喜び、その本人も達成感を得る場面が多々ありました。「新鮮！」という言葉が思わず利用者さんから出たことはそれを物語っています。1月から2月にかけて、普段の3グループを2グループ編成にして行なった時には二人か三人がいつもと違うチームに入ったのですが、その小さな異動の中でも大きな発見や良い緊張感からくる活動への高い集中がありました。

外へ出かけて演奏するというチャンスがない中でも、私たちみんなで作ってよい変化があったね、ということと一緒に味わい確認できる毎回の活動であったことは、職員や利用者さんのご協力によるものです。感謝いたします。

新年度は行事の有無にかかわらず、ドリフラメンバーが勢ぞろいして一緒に活動する日を設けてお互いに聞き合えるチャンスを持ちたいと考えています。

## 夢花工房 デイリー

4月から担当が変わり新鮮な気持ちで取り組んできました。利用者の皆さんは、音楽活動には慣れていて毎回を楽しみに待ってくださっています。お昼に身体も休めた後での活動なので、まずは身体を目覚めさせるところから始めます。「デイリーのこんにちは」に続き、手ぬぐいや輪っかにスカーフを結んだものを使って、体操したりダンスをしたりします。立ち上がって参加する方、前でお手本の動きをしてくださる方、職員さんと協力してほかの利用者さんを誘ってくださる方…和やかに笑いの中で進んでいきます。

合奏では職員の方に指揮をお願いすることもあり、みんなで頑張ろうね！という温かい雰囲気。ピアノの音にも最大限の注意をはらいお互いが顔を見合わせてビートを合わせたり、最後の一打を決めたりします。懐かしい歌を歌うときは思わず声がどんどん出てきて、かつて覚えた歌詞が歌詞幕を見なくても出てくる方、感極まって涙を流す方、もらい泣きする方…トーンチャイムの響きが消えるまでじっとみんなが耳を澄ます時間…限られた時間の中でも、ゆったりとした流れがあり、心が踊ったり静まったりしてリフレッシュするときとなるように、と思います。

使用した楽器などの消毒や必要なサポートをさりげなくして下さる職員の方々にはいつも多大なご協力をいただいております。感謝しています。



## 星槎大学適応自立支援コース

四月に新入生5名を迎えて一・二年生合同での60分授業を1限目と2限目に行いました。緊急事態宣言などは夏季休業や実習期間とも重なって、年間24日の授業と11月の授業発表会を予定通り実施することができました。

二年生より一年生の方が人数も多く、緊張感が漂っていた年度始めでしたが合同授業の中で一緒に身体を動かしたり、二人組での動きや全員で輪になって隣の人を意識しながら楽器を使うことなどを通じて、またレインスティックを手作りする作業で、声を掛け合ったり協力したりすることができ、次第に打ち解けていきました。

今年度もマスクは欠かせない状況でしたが、少しずつ歌うことも取り入れてみると、フランス語の歌を力強く生き生きと歌い、これが演奏することへの自信とモチベーションにつながりました。保護者や入学希望者をお客さんとして迎える授業発表会の合奏では木魚やブームワッカー（ドレミパイプ）なども使い、見た目にも面白い演奏形態のプログラムに挑戦しました。小道具を取り入れようと自分で用意する人、音の出し方をコミカルにアレンジして笑いを誘うよう考える人など、発表の場を自分たちの手で作ろうという意識を持って取り組むことができました。



授業発表会後の授業ではそのことを生かして、自分が演奏したい曲を選び、どの様に演奏するか、誰に何の楽器をお願いするか「プロデュース」して最後の授業で先生方の前で発表することにしました。カラオケに行き一人で楽しむこととは違い、ピアノ伴奏で自分が歌っているとき、バックで友達が打楽器などを鳴らして応援してくれるとどのようなものが出来上がるのか、初めてやってみてそれを感じた時に思わずうれしくなった様子がありました。最後の日には自分の曲で「主役」になってプレゼンテーションしました。音楽活動を通じて、チームで一緒に考えたり行動して作り上げていく喜びを味わい、あるときは自分がリーダーシップを発揮するために考えたり工夫したりする経験、そして発表の場では「お客さん」に喜んでもらえる、という実体験が音楽以外の活動や社会に出て生きていくためのステップとなるよう次年度も臨みたいと思います。

金澤 朋子



## 【子育て支援センターページブル親子リズム】(法人内連携)

毎月1回 概ね1歳半～

昨年度に続き、コロナウィルスの感染拡大の続く日々の中、1回の定員を7組(2回)とし時間も短縮しての取り組みとなりました。

生まれた時から家以外で出会う人はみなマスク顔など、子どもたちの成長に影響はないのだろうか?と心配しながらの日々、生活の中の様々な制約がある中での取り組みとなりました。

母子と一緒に身体を動かし声を出しエネルギーを出すことが大切と言われていても家庭の中で身体を精一杯動かすことは難しく、持続もままなりません。しかし音楽とリードするスタッフや仲間が数人いることで支えられ、自然と笑い、声が出て、力いっぱい身体を動かすことが出来る時間となります。

最初は控えめでいても、誰かの楽しそうな様子を見て自分も楽しくなりやってみようとする一歩はとても自然なやる気スイッチです。「やってみたい」「やってみる」の意欲と決心は小さな子どもにとっても大きな経験です。それを見届ける母にとっても大切な瞬間です。リズムが終わって帰る姿が変わっていきます。

子どもの成長・発達を支えることはもちろんですが、育てる母親の気持ちを支えることも重要です。時には子どもがなかなか皆と一緒に取り組まないなど、心配を訴えるお母さんもいます。そこはいつも関わる機会の多いページブルのスタッフがフォローし次に繋がります。(相談・必要機関への紹介など)希望者の多い活動ですが、毎月一回の制限のある人数の為に必ず毎月参加できるわけではありません。しかしページブルスタッフのフォローと経過の見取りがあることでイベントにならずに積み重ねられる活動として継続することが出来ています。今後も一緒に子どもの育ち、子育てを支えるために協力と連携をしてゆきたいと考えています。

## 【でんでん虫サイエンスクラブ in ページブル 小学生以上】

地域、小学校学区を越えてサイエンスが好きな児童が毎月1回(第2金曜日)に集い、沢山の好奇心と沢山の発言(おしゃべり)沢山の何で?どうして?わかった!の時間を過ごしています。仲間の意見や取組を認めたり、自分の考えを伝えたり、教えたり、手伝ったり。仲間になるということは大人に教えられるものではなく、同じ時間をワイワイと過ごし同じ興味と発見、驚きの共有から無意識



になってゆくのだと見ていて思います。大人は見守り少々の交通整理役で十分。引っ込み思案だった子が自分の意見を述べて皆に「お～!!」と言われた時の表情。友だちが遅れて頑張っているところを何気なく動かないように押さえてあげる姿。自分の知らない事をすらすらと発言する友だちを驚きと尊敬で見開いた眼で見つめる顔。何とか自分の意見をみんなに伝えようと息せききって話す姿。どの姿もみんなの中にある姿です。

仲間はいつでも募集中です。サイエンスは大人も楽しいですよ。

栗原敦子

## 子ども相談室でんでん虫（地域療育等支援事業）1997年開始

子ども相談室でんでん虫は、様々な心配や子育ての悩みについてご相談をお受けしています。  
なごみ福祉会の理念を基に「障がいの有無に関わらず」「待たせない」「期限を切らない（何時でもいつからでも）」「年齢も様々」困ったことにまず対応する事を念頭にご相談をお受けしています。

乳幼児の子育ての悩みや心配、子どもの発達や行動に関しての心配やその対応について。  
保育園・幼稚園・学校での心配や困り事、不登校や進学・進路についての相談

成人してからの事業所での困りごと、自立に向けての相談、生活全般の心配事。  
相談支援や計画相談を利用したことが無い。  
こんなときどうすればいい？

この相談はどこに？誰に？相談したらいいのだろう？  
からご相談をお受けしています

でんでん虫の外来療育利用の皆様だけではなく、川崎市内にお住いの皆さんが対象です。  
何年も相談だけで繋がっている方、何年振りかまた違った相談をしてくる方もいらっしゃいます。

特に子育て時期の子どもの相談は成長発達と共に相談内容も変化します。次から次へと年齢に合わせて困りごとにも変化してきますね。成長発達してゆくことを共に見守れるようにと考えています。

今年度も、相談内容に合わせて学校に訪問し生活の様子を見て具体的な対応について相談したり、ケース会議を開催したり、子育て講座などを行ってきました。

子育て支援センターページブルや保育園との法人内連携や、川崎市内の地域療育センター、児童相談所、各学校、児童発達支援・放課後デイ等の事業所、成人の通所事業所との連携など地域の皆さんと顔の見える連携を取ることが出来るように定期的に各事業所や支援者が情報交換をすることが出来る場（豊かな地域療育を考える会）などに参加し相談内容に多岐にわたって対応できるようにしてゆきたいと思います。 栗原敦子

電話・メールや面談でもお受けしています  
044-911-2612  
[denden-soudan@nagomi-fukushi.or.jp](mailto:denden-soudan@nagomi-fukushi.or.jp)



## ♪新しいスタッフの紹介です よろしくお願ひします！

金澤 朋子です

「ひよんなこと」から出会ったでんでん虫にやってきたのは27年前のことでした。音楽療法を学びつつ働きたい、と飛び込んで職員となったのですが、その後子育て、夫の海外赴任、引っ越しでしばらくご無沙汰していました。20年が経ち、4年前に一つの仕事をさせていただいたことがきっかけでもう一つ、またもう一つと仕事が増え、昨年9月から外来療育も担当させていただいています。

町田に住んで3人の子育てをしながら、ゴスペルを歌ったり、ジャンベを叩いたり、近所の子もたちに教えたりしてきた経験も生かし、また新たに学びながらいろんな方々と音楽を通して関わっていけることを嬉しく思っています。どうぞ宜しくお願いします

はじめまして。金井風花と申します。

月・水・第4土曜日に出勤している、新人の非常勤職員です。

私は、昭和音楽大学の音楽療法コースを卒業し、認定音楽療法士の資格を取得してから、東京都世田谷区にある、音楽療法事業を行っているNPO法人で5年ほど働いてきました。

昨年度の後半からは、ご縁があってでんでん虫の実習に入らせていただき、今年度からは非常勤として、NPOの仕事と両立させながら勤務させていただいております。

趣味はサックスで、コピーバンドやバンドセッションに参加したりと、週末バンドマンをしています。

ダンスも大好きです♪

リズムの時間では、皆さんと一緒に音楽の中で「楽しい」を共有し合えるような…そんなキラキラした瞬間をたくさん作れるよう、一生懸命頑張ります！

市村 眞理子です

2021年度秋から実習。

2022年度4月から非常勤職員として火曜日音楽療法を担当させていただきます市村眞理子と申します。

日本音楽療法学会認定音楽療法士ですが、現在新たな資格を取るために勉強中の為、でんでん虫で昨年秋から実習をさせていただいております。

セッションでは主にピアノを弾きますが太鼓と笛が大好きで、ジャンベ（アフリカの太鼓）とドラムを叩き、インディアンフルートという北米の先住民の伝統的な笛を吹いています。



## でんでん虫スタッフ紹介

2021 年度 3 月末現在

### 《常勤職員》

渡邊 紀子（音楽療法士）

栗原 敦子（保育士・専門相談員）

小田嶋 幸子（音楽療法士）

八嶋 佐紀子（保育士）8 月末退職

### 《非常勤職員》

鈴木 はるみ（音楽療法士・臨床発達心理士）

薩川 朋子（音楽療法士）

林谷 嘉子（音楽療法士）3 月末退職

金澤 朋子（音楽療法士）

久米 純子（音楽療法士）

中園 実咲（音楽療法士）3 月末退職

金井 風花（音楽療法士）

市村 真理子（音楽療法士）

田中 多賀子（言語聴覚士・社会福祉士）



栗本 啓司（健康体操）

伊藤 路奈（健康体操）

田中 真一（太鼓クラブ）

藤高 信男（サイエンスクラブ）

山崎 弘美（事務）

どうぞよろしくお願い致します



## 退職のご挨拶

この度、縁あって群馬県に引っ越すことになり、残念ながらでんでん虫を退職することになりました。

療育相談でんでん虫で働き始めて、気がいたら6年！あっという間の日々でした。面接をした時に「共に生き、共に育つ」という理念を、実際に形にして実践さ

れている活動に強く感銘を受けたのを覚えています。入職してからは、怒涛の日々でしたが、でんでん虫での療育を利用してくださっている方に、どう、その理念の下、その方にとってより豊かに感じられる時間を提供していくか、常日頃の私の課題でもありました。

1回1回真剣勝負、その場、その時に出ている音や音楽を大切にしながら、日々の療育に臨んでいました。やっていくうちに迷うことも多く、その場で悩み留まってしまい、ひとりよがりになったり、動けなくなったりしてしまうことも少なくありませんでした。

はじめは、自分でどうにかしなければ！と一緒にいるみなさんに、どこでつまづいていて、何が課題でどうしていいかというのを、どうしても相談することができずにいました。今になれば、携わっている方々に自分が知らないところで、助けてもらっていたのだと気づきます。

ですが、悩みに囚われているうちはその周囲の人や事に意識を向けられずに居たのだと思います。悩みなながら日々過ごす中で、そのことに気づくことができたのは、厳しくもあたたかく支えてくださっている方と少しずつでも密に話しをしていく時間が、そうさせてくれたのだと感謝しています。

自分と参加者がうまくいった！と思える瞬間が作れたのもそこで支えている同僚、先輩方がいるからだ、助けてくれる誰かがいるからだということを忘れずに、感謝して、これからも悩みながら謙虚に、真摯にその時間を一緒に過ごすかたちと音楽を通してむきあっていきたいと改めて思います。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

林谷嘉子